

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200560		
法人名	医療法人 養命会		
事業所名	グループホーム養命荘		
所在地	岡山県倉敷市福田町福田2374-5		
自己評価作成日	平成31年3月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1		
訪問調査日	平成31年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

良い職場環境は良いサービスを提供する一歩です。優しさをもって心あるサービスの提供を心掛けていきたいと思います。事業所理念のもと、その実現のために、管理者、職員が一丸となって日々取り組んでいます。利用者様とご家族様の声に耳を傾け、その思いが実現でき、『養命荘にいてよかった』と思っていただけるよう日々努力しています。施設内で両ユニットの交流を増やし、利用者様と職員みんなが楽しむ時間を作るように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Ⅱユニットのグループホームでは、利用者の状態にもよるが管理者にも左右される事がある中、ここでは意気投合し助け合う二人の足並みが明るく元氣一杯の活力を生み出している。朝の介護予防の体操・午後は合同で全員で歌いながらの運動が生活の軸となっている。また各自の希望の塗り絵・ドリルチャレンジへの熱中ぶりは、リビングや居室で見る事が出来る。職員の若々しさと、度々慰問に来てくれる3匹のワンちゃん存在が実に頼もしい。一人ひとりの心に寄り添うのは職員だけではないらしい。さらに、このホームの指針となり優れた点は、リアルな記録である。中でも個別の受診ノートの中のスタッフとDr.のやりとりの素晴らしさ(例えば「環境の見直しをしない」「役割を作って下さい」「話し相手が必要」「どんな事に興味があるか」「何が出来るか」等の指示)はこのホームの舵取りの役割を担っていると思う。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を見えやすい場所に掲示し月に一度のミーティングの時には全員で再確認を行っています。	「良い環境は良いサービスへの一歩・優しさを持って心あるサービスを心がけて」の理念を職員は常に念頭に置き実践している。「優しさ」を大切にする為に「職員同士でもありがたい言葉を忘れないようにしよう」と話し合っている。	運営推進会議で民生委員からの提案で「職員が一人ひとりの目標を立てて、写真と一緒に掲示しては？」が取り上げられ実際にホームの玄関に見られる。訪問した家族も分かりやすい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供会の廃品回収に協力し夏と秋の祭りには積極的に参加をしています。ボランティアの受け入れも行い交流する機会を作っています。	地域の秋祭りや水島支所の雛めぐりの作品展に出展・見学に行く等、地元の行事に参加している。また日頃から近隣の方々が「出来過ぎたから」と野菜や果物を差し入れてくれたり、先日は土筆を山ほど持って来てくれ、利用者が袴取りに精を出した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議の議題の一つに挙げさせていただき地域の川掃除に参加させていただく予定を立てています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の様子やボランティアとの交流について報告しています。委員の意見を参考にし日々のサービス向上に活かしています。	5人程の民生委員・包括・家族・他事業所の管理者等、多数の参加を得てホームから種々の報告をしている。この会議が優れている事は、参加者の意見や提案が多く出され、会議録に綿密に記録されている事だろう。	運営推進会議を定期的実施しているホームは多いが、このホーム程意見が多く出され、それがサービス向上に活かされている所は少ない。参加者の好意的で、このホームを我が事のように提案したり話し合っている状況がよく分かる。今の状況を続けて、より良いホームにして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の運営についてわからないことがあればその都度相談しアドレスを受けています。	このホームでは常勤の看護師がいないので、医療的問題で、しかも些細な状況の判断が難しいケースでは、市の担当者と綿密な相談を繰り返し、指導をしてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の安全確保と不審者の侵入防止の観点から市の担当課に相談して玄関は施錠していますがその他の拘束については実施していません。またミーティングのなかで身体拘束についての勉強会を行っています。	行政の指導もあり、身体拘束についての問題を高齢者虐待防止と共に研修を実施している。利用者とは仲の良い間柄になっているようだが、言葉による心理的拘束についてもよく注意して対応している。	ホームの玄関の施錠も特別な事情がある場合は別として考慮すべき項目となっているので、状況の変化に応じて運営推進会議で議題に出したり、緊急の場合は市の担当者とその都度相談し、見直しして欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に虐待防止についての勉強会を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング時に勉強会を行っています。今後も勉強を重ね理解を深めていきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書で説明を行い、納得していただき、サービスを利用していただいています。ご本人様、ご家族様の意向を聞いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	だれでも自由に意見が寄せられるように、受付に意見箱を設置しています。また、面会時には声掛けを行い、要望や意見を聞く機会を作っています。	ホームや職員の立場から考え、利用者本人から、また家族から要望や意見を受け入れようとする仕組みやチャンスを設定し、サービスや運営に反映出来ていると思われる。情報も写真入りの「養命荘だより」や面会時によく伝えている。	職員の立場から見ると利用者・家族の思いは十分受け止めていると考えていても、実際には十分受け入れが出来ていない事もある。目標達成計画の項目の中にも関連の問題が掲げられていたので、今後の課題にして取り組んでみて下さい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に全体ミーティングとユニットミーティングを行っています。必要に応じて代表者や顧問社労士が同席で意見交換を行い、職員の意思が反映できるようにしています。	ホームで定期的実施している業務の中で職員の意見や提案を取り上げるチャンスがあるが、ミーティングノート・その他の記録からも職員同士でお互いに「こうしよう」といった意見や誘いかけが読み取れ、このホームの優れた一面を見る事が出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には毎日管理者が日々の業務、利用者様の様子、職員の勤務状況を報告しています。また、定期的に管理者が職員の勤務態度や実績について、評価報告をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を受ける機会を確保しています。また、資格取得についても、積極的に奨励し、資格取得費用の補助も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所の運営推進会議に参加しています。また、地域の医療機関や介護施設の研修会に参加し、交流を深めています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、管理者と計画作成担当者が面接に行き、ご本人様ご家族様の要望など、意向をお聞きし、不安の解消に努め、安心して生活できるように、支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の際に、施設での生活でご家族様が不安に思うことや、要望がないかお聞きしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前と入居後には、管理者と計画作成担当者と職員でカンファレンスを実施し、その時々で必要なケアの対応支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの利用者様にできることをしていただき、役割をもって家庭的な雰囲気の中で共同生活が行えるように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人の状況をお伝えし、ご家族様の要望をお聞きしています。他病院への定期通院など、ご家族様にご協力をしてもらっています。また、外出ができるように支援しています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と一緒に外出し、ご自宅に帰られたり、お墓参りに行かれる方もおられます。ご友人が面会に来ていただけるように、声掛けもしています。	馴染みの関係が良い形で続いており、家族はもとより教え子や元同僚の面会、友人からの手紙の返事を書く人、デイサービスに遊びに行き知人と会話して喜ばれている人等、これまでの関係を継続出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を把握しレクリエーションの順番や席に配慮しています。また、洗濯物を畳んだり、食器やお盆の片付けなど同じ役割を共有し、協力しながら共同生活を楽しめるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際には、面会に行き、関係の維持に努めています。退去後も必要に応じて、ご家族様の相談を受けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中からご本人様の思いを把握しようと努めています。その会話を介護記録に残し、職員全員が読み返し、把握できるよう、改善しました。まだ、気づきに関しては足りない点も多く、課題として取り組んでいます。	お洒落は女性にとっては楽しみの一つであり、買い物に行き、自分で洋服を選んで購入し「鏡に映してにっこり！」満足する人もいと聞いた。一人ひとりの思いや希望に添うように努め、自己決定してもらっている。種々の記録から利用者の心情や思いが伝わってくる。	往診時の主治医・利用者・職員とのやりとりが受診ノートに記録してある。とても良いアドバイスを頂いているので、もっとDrの言葉を真剣に受け止めて職員間で話し合ってみてはどうか？利用者の思いに添ったケアを期待している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様との会話の中からや、ご家族様から今までの生活歴をお聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活を見守り、どう過ごしているか、どのような支援をしたかを、生活記録に残しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの際に、職員全員の意見を聞いています。ご本人様のために、何が必要であるのか、よりよく暮らしていただくための課題から、対応策を話し合っています。ご本人様、ご家族様には日々の会話や面会時に意向を聞いています。	本人・家族から聞き取った意向を基にして、職員間で話し合っケアプランを作成しているが、「心のケア」に対する支援が少ないと感じる。包括的自立支援プログラム(ケアチェック表)にある本人の訴えや希望欄を有効に活用し、「具体的内容に対応するケア」の項目を充実させてプラン作りをすると尚良い。	介護記録の記入について、目標達成計画に挙げて頑張っているようだが、時系列に職員が介護した内容が目立ち、まだまだ利用者の発言や会話の記録が足りないと感じる。もっと精神面・心理面にスポットを当てたプランを作成して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、生活記録に記録しています。特に職員会で共有が必要な内容については、申し送りノートを活用し、情報共有に努めていますが、さらなる工夫を検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の意向をお聞きし、できる範囲で応えられる様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事を把握し積極的に参加しています。また、地域の方が施設の畑づくりを手伝ってくださり、入居者様と交流が履かれています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医の往診や、歯科の往診を受けています。体調に変化があればすぐに主治医に連絡し、対応を相談しています。	往診時、母体病院副院長の主治医からの指示や、職員との会話をリアルに記録している受診ノートを職員間で共有し、日々のケアの参考にしている。精神科等の他科受診が必要な時は紹介状を持って、職員が同行する事もある。医療と介護との連携が良く出来ているので安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師資格を保有している職員が在職しています。かかりつけ医の看護師と常に連絡・相談ができる体制がとられています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院先の医療機関に施設での生活の様子を情報提供しています。また、面会に行き、家族や医療機関の関係者と情報交換・相談を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人様・ご家族様に相談していますが、体調に変化があった時には、主事を含めて再度説明を行い、理解を得ています。	看取りの研修はしているが、重度化や医療が必要となった時は、他施設や医療機関へ移行するケースが殆どで、ホームでの看取りの実例はない。全体的に高齢化や重度化が進んでいるが、出来る限りホームで支援していこうと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の発生に備え、職員会議の場で話し合いや、勉強会を行っています。日中や夜間の緊急対応についてのマニュアルを作成しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を実施し、運営推進会議で報告しています。報告後には、議題として取り上げていただき、地域の方々の意見を聞かせていただくことができ、実際に避難場所へ下見に行くこともできました。	水島消防署や防災会社の人が来所し、避難訓練・消火器訓練等を実施している。運営推進会議では「色々な災害に合わせた訓練を行うべき」という参加者からの意見もあり、地域の人に土地の状況を聞き、職員が実際に現場検証する等、災害対策に備えている。	

自己 自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけや、対応にその方の尊厳を失わないように、日頃から心掛けています。外出するときには、名札を外し、私服で付き添っています。	例えば、排便の時には言葉ではなく、アイコンタクトやジェスチャーで対応する等、直接的な表現をしないようにしているし、脱衣所にトイレが設置されているので、排泄の失敗時にも迅速に対応出来、羞恥心やプライバシーへの配慮もしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々係る中で、ご本人様が自分の思いを自由に表せるような雰囲気を作り、声を掛けるようにしています。また、ご本人様に何でも決定できるように働きかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペースを尊重しながら、生活を送っていただけるよう心掛けています。その日に何をしたいかなどを問いかける工夫をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候に合った身だしなみが行えるように、アドバイスをしています。また、ご自身で選択できない場合には職員が声掛けをしながら、一緒に選んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を外部の業者に委託しているため、片付けや洗い物を利用者様と一緒にしているのみです。将来的には自施設で調理できる体制にしたいと考えています。イベント時には職員も利用者様と一緒に食事時間を作るようにしています。	リビングに入ると数人の利用者が、近所の人々が持ってきてくれた土筆の袴取りの真っ最中。出来る人には野菜のしょうやくや、食事の後片づけ等を手伝ってもらっている。畑で採れるミニトマトやさつま芋も食卓に上るそう。介助が必要な人も数名いるが、殆どの方は自力摂取出来る。	外部の宅配サービスを利用しているが、今のところ職員が検食する仕組みはないと聞くので、例えば一人づつでも順番に毎食利用者と同じものを食べ、硬さ、味付け等、職員が検証するのも大切な事と思う。是非検討してみたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は摂取ごとに記録しています。水分はなかなかとりにくい方もおられるため、何種類か飲み物を用意し、提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアをしていただけるように、声掛けや見守り、介助を行っています。希望者には訪問歯科による歯科診療・口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っています。また、職員間での情報共有や情報交換に努めています。夜間頻尿や日中失禁回数の多い利用者様にはトイレ誘導の回数を増やしています。	排泄が自立で布パンツの人も数名。介助が必要な人には声かけ・誘導して自立支援につなげており、これまでの生活習慣の延長で男性用便器を利用する人もいる。夜間も頻回にトイレに行く人の部屋にはポータブルトイレを置いているが、安全面や設置場所等職員間で話し合いを重ね模索中との事。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員会議の際に、便秘についての勉強会を開き、原因対策を学んでいます。適度な運動、水分摂取ができるように心がけ、できるだけ薬に頼らず排便ができるよう取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を考慮し声掛けを行っています。一人一人の希望を聞いて湯の温度を変えています。	夏期は週2～3日、冬期は週2回が基本。外の坪庭を眺めながら入るお風呂はリラックス効果をもたらし利用者にもとても好評である。脱衣所の床暖房の優しい配慮も嬉しい。毎回入浴剤を使用し、冬至には柚子湯をして楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様のペースに合わせて休息をいただいています。また、就寝に向けてリラックスできるような工夫を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人のお薬情報を整理してファイルに保存しています。個別の薬ケースで薬を管理しています。服薬確認の際には名前、日付を声に出し確認してから、服薬していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭き、洗濯物の干しとたたみ、食器洗いなど、その人その人ができることを役割としていただけるよう、働きかけを行っています。外食や買い物の支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の付き添い・外出(スーパー・図書館)の支援などを行っています。支援がむづかしいときは、ご家族様にも協力していただいています。	買い物ツアーでは、事前にアンケートを取り外出先を決めている。「洋服買いたい」「スーパーでおやつ買う」「雑貨を見に100均へ」等々のお出かけや、お墓参り、図書館等の個別の外出支援にも力を入れている。重度化が進んでいるユニットもあるが、今年こそはドライブで花見に行こうと思っていると聞いた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として、事業所の金庫に保管し、買い物をしたときには一緒に出掛けて、支払いはご本人様にさせていただきます。出納帳を記入し月に一度ご家族様に確認していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、すぐに対応しています。いつでも自由に、やり取りができます。写真入りの年賀状も出せるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心掛け、季節のお花をご入居者様に生けていただき、飾っています。フロアにも季節感が出るように職員とご入居者様で飾り物を作りデコレーションしています。室内温度・湿度にも気を使いこまめに調節するように心がけています。	夫婦で別ユニットに入所している人は、お互いに行ったり来たりして程良い距離感を保ち、力を入れている歩行訓練にも一役買っているようだ。他の人達も午前・午後と様々な体操や運動をして体力作りをしている。時々慰問に来てくれる3匹のワンちゃん存在にも癒され、和やかな雰囲気のリビングになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファを配置し、ご入居者様同士が自由に行き来し、くつろげる工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた家具や、思い出の品々などを居室に持参してもらっています。家庭的な雰囲気を作り、心地よく過ごしていただけるように工夫をしています。	入所以来片時も離さなかったぬいぐるみの「ジロちゃん」と最近は離れて過ごせる様になり、他の利用者とも話をするようになったAさん、お洒落で衣装持ちのBさん等々、どの部屋もその人らしさが滲み出た雰囲気で、インテリアも自分で、或いは家族がレイアウトして落ち着いた過ごしやすい環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内・居室内の整理整頓を心掛け、転倒防止に努めています。また、施設内のほぼすべての場所には手すりを配置し、トイレの場所などもわかりやすいようにポスターも掲示しています。		